

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

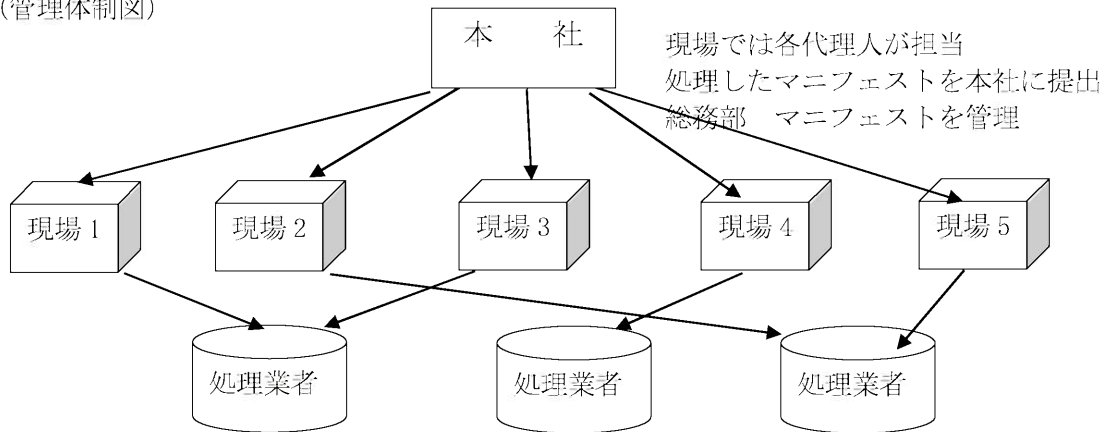
(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 7年 5月30日	
大分県知事 佐藤 樹一郎 殿	
提出者	
住 所 大分県佐伯市弥生大字小田1089番地2	
氏 名 株式会社 盛 田 組	
代表取締役 盛田浩史	
電話番号 0972-46-2760	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 盛 田 組
事業場の所在地	大分県佐伯市弥生大字小田1089番地2
計画期間	令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	土木工事業
②事業の規模	令和5年度 完成工事高 426,773 (千円)
③従業員数	19人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・道路拡幅工事 がれき類(AS、CON) → 再生処理業者に委託して再生砕石として再資源化 ・掘削護岸工事 木くず(竹、根株、草) → 再生処理業者に委託してチップ(合材用、燃料用、肥料)として再資源化

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	木くず	アスファルト	コンクリート	廃プラスチック
	排出量	48.165 t	697.330 t	552.060 t	5.641 t
	産業廃棄物の種類	金属くず	がれき類	紙くず	汚泥
	排出量	0.791 t	4.490 t	2.070 t	0.110 t
	産業廃棄物の種類	混載			
	排出量	1.330 t			
(これまでに実施した取組) 昨年度は道路改良工事により、アスファルトやコンクリートの搬出が多くなっている。					
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	木くず	アスファルト	コンクリート	廃プラスチック
	排出量	40.000 t	500.000 t	200.000 t	3.000 t
	産業廃棄物の種類	金属くず	がれき類	紙くず	混載
	排出量	0.500 t	3.000 t	2.000 t	1.000 t
(今後実施する予定の取組) 受注した工事によって、廃棄物の量が変わってくるが、分別に努め廃棄物の減量化を進めていく。					

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 混載の中の木くず、金属くず、紙くずなどは分別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場ゴミで出す分は、できる限り分別する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特に予定なし。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) 特に実施していない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) 特に予定なし。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実施】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量		
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量		
	(今後実施する予定の取組) なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実施】									
	産業廃棄物の種類	木くず	アスファルト	コンクリート	廃プラスチック	金属くず	がれき類	紙くず	汚泥	混載
	全処理委託量	48.165	697.330	552.060	5.641	0.791	4.490	2.070	0.110	1.330
	優良認定処理業者への 処理委託料	0.000	0.000	4.670	1.936	0.000	0.000	0.000	0.000	1.100
	再生利用業者への 処理委託量	48.165	697.330	547.390	3.705	0.791	4.490	2.070	0.110	0.230
	認定熱回収業者への 処理委託量									
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量									
	(これまでに実施した取組) 優良産業廃棄物処分業者を選定している									

【目標】									
産業廃棄物の種類	木くず	アスファルト	コンクリート	廃プラスチック	金属くず	がれき類	紙くず	汚泥	混載
全処理委託量	40.000	500.000	200.000	3.000	0.500	3.000	2.000	0.100	1.000
優良認定処理業者への処理委託料	20.000	100.000	100.000	2.000	0.100	1.000	1.000	0.000	1.000
再生利用業者への処理委託量	20.000	400.000	100.000	1.000	0.400	2.000	1.000	0.100	0.000
認定熱回収業者への処理委託量									
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
(今後実施する予定の取り組み) <ul style="list-style-type: none"> 再生利用が可能な廃棄物については、再生利用業者へ処理委託する。 現場のゴミはできる限り少なくして、自ら分別を行う。 									
※事務処理欄									

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。